支援者のみなさまへ

ピースワンコ・ジャパンが広島県で殺処分対象になったすべての犬の引き取りを始めてから、二年五カ月がたちました。今も、毎週平均三十頭ほどの犬を保護し続け、県内の犬の「殺処分ゼロ」をなんとか維持しています。過去に例のないこのチャレンジを支えてくださっている支援者のみなさまに、心からお礼を申し上げます。

「殺処分ゼロ」の維持は、言葉でいうのは簡単ですが、決して生易しいことではありません。私たちはこれまで、みなさまに活動の成果をお知らせする一方で、ご心配をおかけしないよう、現場の苦闘を赤裸々にお伝えすることを控えてきました。しかし今日は、現状と私たちの思いをありのままにお伝えするため、このお手紙を書かせていただくことにしました。

現在、ピースワンコの保護施設には二千四百頭以上の犬がいます。全頭引き取りを始める前の十倍以上です。県の動物愛護センターなどから、捨て犬や野犬が次から次へと送られてきます。

今まで、私たちは保護施設の拡充と、飼い主さん探しに必死な思いで取り組んできました。しかし、犬の増加のペースはその努力を上回り、人に愛情を注がれた事がない環境で育った野犬の保護犬の一部が、スタッフが心を込めて世話していても、人の目が届かない早朝などにけんかをし、死に至るケースもありました。このような事故はスタッフにとってはたいへんなショックですし、私自身も辛い思いをし、その度、改善を続けてきました。

私たちを批判する人は「詰め込みすぎで、犬がかわいそうだ」と言います。暴れる可能性がある野犬化した犬を一頭ずつそれぞれ隔離するという理想的な状態にないことは、たしかに認めざるを得ません。「野犬は即殺処分」「引き取る頭数を制限するべき」というご意見もあり、そうすれば私たち自身が楽なのはわかっています。

でも、野犬といえど、飼い犬と同じ、命ある生き物です。引き取りを止めた瞬間にガス室に送られます。保護され、スタッフの愛情を受け、優しい飼い主に引き取ってもらえた犬もたくさんいます。

みなさまのご支援のおかげで、犬舎や譲渡センターを新たにつくることができ、犬のお世話をするスタッフも百人以上に増えました。まだ十分とはいえませんが、犬どうしの殺傷事故も劇的に減りました。

こういう犬舎等の新規の建築に対し、「ピースワンコは金もうけがうまい」などと中傷する団体や人もいますが、これはまったくの見当違いです。保護犬の医療費、施設の建設費、スタッフの人件費などをご寄付だけでまかなうことはできず、特に昨年度は、急な犬舎の増築で、予算を一億三千万円オーバーし、それがそのまま団体の赤字になりました。それだけのリスクと責任を背負って取り組んでいます。

非難や中傷は他にもあります。特に多いのが、避妊・去勢手術をしないのは保護団体として許せない、というものです。これについて、私たちは、生き物本来の機能をなるべく大切にしたいと考え、すべての保護犬に一律に避妊・去勢をするという方針はとっていません。特に子犬の成長過程に影響する可能性がありますし、そもそも手術に耐えられないほど健康状態が悪い犬、避妊・去勢によりホルモンバランスが崩れて心身に影響が出る犬もいるからです。

もちろん必要だと判断する犬には、避妊・去勢を進めています。現在は全体の五分の一以上の犬が不妊手術を済ませています。これも、全頭来たらコンベア式に不妊手術をすれば非難されないのに、と支援して下さる方からもよく言われます。しかし現在も、一頭、一頭の健康状態や様子を見ながらというわざわざ面倒な方法をとる方針は変えていません。

また、今年六月には、一部の保護犬に狂犬病の予防注射ができていないとして、広島県警の捜査を受け、みなさまにもご心配をおかけしました。想定の二倍近い犬の引き取りに加え、パルボウイルス感染症が断続的に発生して対応に忙殺され、約二千四百頭の中で数パーセントの犬について接種が間に合わなかったのは事実です。捜査時点では今年度分の接種は完了していましたが、残念ながら過去の分の遅れを問われました。

こうしたさまざまなことに直面しながらも、幸い、昨年度は千八百頭を超えた犬の保護数が、今年度はこれまでのところ年間千二百頭ほどのペースに落ちています。まだ多いものの、捕獲が進んだことで野犬の繁殖が抑えられ、明るい兆しが見えてきました。飼い主さんに迎えられる犬の数も年五百頭以上のペースにまで増えており、みなさまのご支援を得て努力を続ければ、近いうちに飼育頭数が減少に転じると見込んでいます。

私たちがやろうとしていることは無謀な挑戦だと多くの人に言われました。そして、今私たちがやれている事は、完璧でない事も充分承知しています。様々なご批判に、迷い、苦しみそれでも、一頭、一頭の、命を救うことめざし、歯を食いしばって頑張って改善を続けています。

今回、ピースワンコが直面する厳しい現実と、それでも殺処分機の再稼働を許さないという私たちの決意をお伝えするため、長文のお手紙を書かせて頂きました。。乱文どうかお許し下さい。

みなさまの声が、私たちの支えです。「殺処分機を二度と稼働させない」という約束を守るために頑張ります。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
ピースワンコ・ジャパン　プロジェクトリーダー
大西純子